

2021年6月6日 あげぼの幼稚園創立感謝礼拝
説教題「Fixed On Jesus」ヘブライ12章1～2節

大井バプテスト教会
主任牧師 加藤 誠

「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい」(ヘブル人への手紙12:2
新改訳2017)

「Fixed On Jesus」。これは英語訳の聖書で「Having our eyes fixed on Jesus」(私たちの目をイエスから離さずにいよう)と書かれていることからもらいました。「Fix」は英語で「しっかりくっつける、固定する」という意味ですから、「私たちの目をイエスにしっかり fix させて離さずにいよう」というのです。そのイエスは「信仰の創始者」(私たちに信仰を与えてくださった方)であり、「信仰の完成者」(私たちの信仰を神さまに最後まで導き続けてくださる方)だからです。

私たちが生きている世界はたくさんの困難や不条理、悲しみであふれています。「神さまがいるなんて信じられない!」と言いたくなる現実がいっぱいです。けれどもその世界にあって、「それでも神さまを信じて生きていこう!」という思いを私たちに与え、私たちを導き続けてくださっている方がイエス・キリストです。主イエスは、暗い思いでふさがれている私たちの心に信仰の灯を灯してくださいます。私たちの信仰はちょっとした困難で吹き消されてしまう弱々しい灯ですが、主イエスは忍耐強く私たちに伴い、祈り続け、信仰の火を起こし続けてくださいます。そして「さあ顔をあげて、神さまの希望の約束に向かって歩もう!」と立ち上がる力を与えてくださるのです。それゆえ聖書は今日、私たちに「嵐の吹きすさぶ世界にあって、この主イエスから目を離さずに、愛の神さまにしっかりつながって歩いていこう!」と呼びかけているのです。

1949年、あげぼの幼稚園は大井バプテスト教会附属幼稚園として創立されました。あの悲惨な戦争から4年後、昭和24年のことでした。大井町も焼け野原となり、戦後の貧しさの中、着の身着のまま遊びまわる子どもたちの姿を見ながら、大井バプテスト教会の初代牧師大谷賢二先生は「あの愚かな戦争をキリスト教会は止められなかった。再び愚かな戦争によって人々が犠牲にならないように、聖書の神を敬い、愛と正義と平和を求める人材を育む幼稚園をつくろう」と教会の人々に呼びかけ、教会は祈りはじめ、あげぼの幼稚園は誕生しました。そして今年で72年、主イエスの見守りのうちに地域の方々のあたたかい理解に支えられて、あげぼの幼稚園が歩いてこれたことを神さまに深く感謝します。

ところで、あげぼの幼稚園がその土台としている神の愛とはどういうものなのでしょう。「愛」という時、多くの場合、私たちは「好き」という感情と混同しているように思います。「好き」というのは、例えば「わたしはイチゴよりメロンが好き」というように「わたしの好み」に基づいた感情です。「わたしを心地よくして、うれしくしてくれるもの」を喜ぶ感情であり「わたし中心」の感情です。その「わたしの好み」はしばしば変わります。「前はイチゴが好きだったけど、いまは

好きではなくなった」というように、「わたしの好み」は実に身勝手にわたしの都合で変わるのです。それに対して「愛」は、相手の存在を喜び、大切に思う意思です。相手の幸せを願うことです。相手が困難の中にいれば心配し、悲しみの中にあれば自分も悲しくなり、何か自分にできることはないだろうかと思いつめぐらすことです。聖書は、神の愛を「アガペー」というギリシャ語であらわしています。「無償の愛」「無条件の愛」とも言われる愛です。神は一人ひとりに命を与えてくださいました。命を与えたゆえに、私たち一人ひとりのことを祈り続け、どんな状況でも途中で見捨てることなく、むしろ私たちの弱さを引き受けて責任をもって最後まで一緒に歩んでくださる愛、それが神のアガペーです。「どうしても好きになれない」とか、「前は好きだったけれど、もう飽きてしまったから」とか、無責任に背を向ける「わたし中心の好き」という感情とはまったく違う、責任ある関わり。それがアガペーです。ところが私たちは多くの場合、「好き」の最上級「大好き！」が「愛」だと勘違いしていないでしょうか。けれども「好き」が「わたしの無責任な好み」の感情である以上、どんなに「大好き！」と言って相手を抱きしめても、それは「愛」とはまったく別ものです。それはいつ「大嫌い」に変わるかもしれない、危うい「わたしの感情」だからです。

「わたし中心の好き」という感情ではなく、イエス・キリストが教えてくださる「神の愛」(アガペー) にしっかりとつなげられて、その栄養を受け続けていく。自己中心の私たちは愛することに失敗してばかりだけれど、だからこそ(!) 聖書が教える「神の愛」に日々繰り返し学びながら、家族を愛し、友人を愛し、隣人を愛し、時に「敵」を思われる人のことを「愛する」(その存在を認め大切にすること) を学んでいく。これがあけぼの幼稚園の土台としているものです。

アメリカの公民権運動を指導しノーベル平和賞を受けたマルティン・ルーサー・キング牧師はこういう主旨のことを語っています。「イエス・キリストは『あなたの敵を好きになれ』とは言われず、『愛せよ』と言われた。私たちの家庭に爆弾を投げ込む人をどうやって『好き』になれるだろうか。しかし神がすべての人をアガペーの愛をもって大切に祈っておられるから、私たちも彼らを愛し大切にすることだ。自分たちに殺そうと襲い掛かってくる人たちを「好き」にはなれない。けれども神がその人をも「愛して」おられるゆえに、私たちもその人を大切に覚えて祈っていく。そのとき、私たちは神さまが祈り願っておられる「正義と平和」がどういうものであるかを学んでいくのです。

あけぼの幼稚園創立の時、最初の卒業生たちが植えた三本の桜の木のうち一本を残念ながらこのたび伐採することになりました。けれども樹木医さんによると、これからも桜の根は何百年も生き続けて、根本近くの若木を成長させ続けていくのだそうです。今、コロナの困難に厳しく覆われている世界にあって、イエス・キリストから目を離すことなく、あけぼの幼稚園が土台にしている「神の愛」に私たちもまたしっかり根ざして、神と共に歩ませていただきたいと願います。